

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY
名古屋
ちくさ
題字 伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 名古屋東急ホテル
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 鈴木 聖三
幹事 太田 和孝
公共イメージ向上委員会 榎尾 富二

No. 23

インスピレーションになろう
BE THE INSPIRATION

2018～2019年度

RI会長
バリー・ラシン

今日の例会

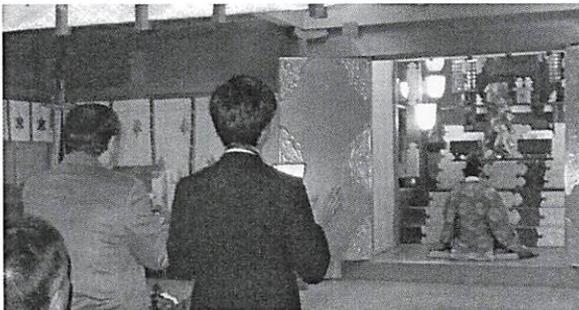
第1716回 2019年(平成31年)2月5日(火)
卓話 「86歳になって思うこと」
元 中京テレビ放送 専務取締役 鷺谷 龍男 様

先回の例会

第1715回 2019年(平成31年)1月29日(火) 晴
節分例会
城山八幡宮 17:30～



節分祈禱・追儺式



- ◆奉仕の理想
- ◆ゲスト紹介
名古屋名城 RAC 幹事 林 雅大 様
米山奨学生 イム・セウォン 様
- ◆出席報告
正会員 38(34)名 出席 24名
出席率 70.59 %
前々回 1/15 (修正出席率) 87.10%
☆ビジター数(昼間) 48名

太田幹事報告

- 1) 2月0-列-レポート 1ドル=110円
- 2) 本日配布案内: 2月の例会案内
- 3) 1月理事役員会承認報告
- 4) 分区内交流推奨例会のご案内

分区内交流推進例会のご案内

名古屋守山ロータリークラブさんより下記
分区内交流推奨例会のご案内が届いております。

日時 2019年2月13日(水) 12:00～13:30
場所 名古屋マリオットアソシアホテル 16F「アゼリア」
ビジター費 4,300円
例会内容 (守山 RC・東南 RC 合同例会)
卓話 中村 恵 氏
(国連 UNHCR 協会職員・元ロータリー財団奨学生)
演題 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) とは?
私たちにできる支援
- 2月 平和と紛争予防/紛争解決月間に因んで -

ご出席希望されます方は 2/7 までに事務局あてに連絡願います

◆渡邊国際奉仕委員長より カンボジア小学校井戸支援についてご案内



過日総会にて承認されました NPO
法人キャンヘルプタイランドを通じて
のカンボジア、オコキ小学校への井戸
支援についての経過報告、カンボジア
視察渡航日程についてご案内。またそ
の際、文房具を寄付。本日の例会より
募金箱設置致します。

◆米山奨学生 イム・セウォンさんへ1月奨学金授与



12月17日に卒業論文を無事提出できました。1月8日に口述試験も終わり、これで多分卒業できるかなと思います。ありがとうございました。試験が終わった次の日から2週間長野へ合宿で自動車免許を取りにいって来ました。明日、最終学科試験を受けに行く予定です。合宿で友達も沢山できました。教習所の中では、試験ばかりでストレスもあったのですが、友達と一緒に近くのお店にデザートを食べに行ったりして楽しい2週間を過ごし良い思い出ができました。

池森職業奉仕委員長挨拶



今日は恒例の節分例会です。吉田宮司様、会場の提供、神事とお世話になりありがとうございます。またのちほど宮司様より講話を頂きます。よろしくお願い致します。

名古屋名城 RAC 林幹事挨拶



本日はお誘い頂きありがとうございます。また、先週の名古屋名城 RAC の例会では、福井様に卓話をお引受けいただきまして誠にありがとうございました。今回のような節分祈禱は初めて経験させて頂きます。今年、名古屋名城 RAC

も3名新会員が入会する予定です。確定ではないのですが、本日祈禱して頂き鬼を払いましたので、大丈夫だろうと入会を確信しております。人数も少し増えますのでもう少し元気なクラブをめざして頑張っていきます。今後ともよろしくお願い致します

鈴木会長挨拶



寒い日が続いていますが、立春が近づき、日差しも何となく明るくなってきたような気がします。先ほどは、恒例の節分の御祈禱と追儼式をしてまいりました。城山八幡宮の方々にはお世話になりました。ありがとうございました。

皆さんもご存知のように、立春の前日が節分、節分の行事は、神社では節分祭といわれます。追儼式は節分の夜、大豆をまいて鬼(病気などの災いを例えたもの)を追い払う行事ということですが、各地で行われる節分の豆まき、その方法は様々あるようです。例えば、掛け声です。「福は内、鬼は外」と言いますが、違う掛け声も結構あるようです。大須観音では鬼の面が寺の宝ということで、掛け声は「福は内」だけということです。奈良にある元興寺(が

んこうじ)というお寺では「福は内」そして「鬼は内」と言うそうです。

それからご家庭では、豆をまく、豆を年の数だけ食べるという方も多いと思います。皆さんのご家庭でも恐らくそういうことをおやりになると思いますが、最近はそういう伝統行事に対する楽しみ方が変わってきているようです。

代表的なものが「恵方巻」です。恵方に向かって黙って丸かじりをして福を呼び込むとか、具の種類は7種類とかいろいろ言われています。「恵方巻」の由来は「諸説あり」ということなのですが、毎年、この時期になるとスーパーやコンビニでは、店頭で「恵方巻」が山のようになり並びますが、30年ほど前に、あるコンビニが売り出したのがきっかけで広まったといえます。

あるアンケートでは、豆をまく人や豆を年の数だけ食べる人の割合が減って、逆に恵方巻を食べる人の割合がそういった人たちの割合を上回った、それからもう一つ、何もしない人が増えて、豆をまいたりする人たちの割合を上回った、という結果があるそうです。住宅事情によるものなのか、生活スタイルが変わってきたのか、はたまた少子高齢化によるものか、人によっていろいろな見方があると思いますが、変わっていくのは仕方がないことかもしれません。

ただ、この「恵方巻」ですが、いわゆる「食品ロス」の問題も起こっています。農水省が必要に見合った販売をするよう、コンビニやスーパーの業界団体に文書で要請するほどになっています。せっかくの行事ですから工夫してもらいたいと思います。

節分が過ぎると春が来るということになるわけですが、今日は皆さんに、「福」と一緒に良い春が来るよう願って、豆まきをしました。それから、まだまだインフルエンザが流行っていますので、健康管理には十分気をつけて頂きたいと思います。

福は内、福は内です。

講話

吉田 玄



どんど焼き

先々週、毎日のようにテレビ各局で放送されましたので目にした方も多いと思いますが、所謂「どんど焼き」、神社では「古神札焼納祭」という名称で行っている祭典の事でありました。当地方では、どんど焼きと呼ばれてい

ますが、場所によっては「とんど焼き」「とんど」「左義長」「三稜杖」「さぎっちょ」「どんどん焼き」「どんと焼き」「さいと焼き」、九州では「鬼火焚き(おにびたき)」「鬼火」「おねび」「ほっけんぎょう」「ほうけんぎょう」「ほんげんぎょう」等、実に様々です。

平安時代の宮中行事で、毬を打つ杖、毬杖(ぎっちょ)3本を結んで火を焚いたりした「三稜杖(さぎっちょ)」が起源という説や、正月に迎えた歳神を小正月の頃、山や天に返す火祭りが起源という説があります。滋賀県近江八幡や岐阜県海津市の左義長は無形文化財に指定されたりしている大規模なものです。

どちらにしても、門松や正月飾りを焚いて帰って頂く行事であろうと考えられています。

正月の書き初めをどんで燃やすと、天の神様に見て貰え字が上手になるとか、この火で炙った餅を食べると無病息災でいられるとか、伝わっています。

そんなところから鏡餅を神社に持ってきたり、ノートや手紙を持ってきたりするようになったと思われませんが、実は本来この乾燥した季節に、それで無くても燃えやすい神社で大規模に火を燃やすというのは理屈に合いません。

元来は、農閑期に田や畑が空き、広い場所ができるので、そこで火を焚くという集落単位の民間行事です。

近代以前は自然素材が殆どですから、焼いても田や畑に害は及ぼしません。ところが現代では殆どが化学製品で金属も使われますから、そんなものを焼くとダイオキシンが発生したり、農地が耕作不可能なゴミ焼却場になってしまいます。現在農地でどんで焼きを行っているところも、燃やす物を厳重に分別し大変な手間が掛かっており、その後始末や焼却灰処分に困って行事を中止したところが多くなっています。神社でもこの行事を中止しているところが増えています。

また、市街地化すればするほど、この行事の意味が忘れられ、何でもかんでも神社に持ち込むという現象が増えています。本来、集落の行事であり、燃やす物も限られていましたが、それも忘れられています。

今年、テレビ局の取材もこの問題を捉えたもので、プラスチックに入った家庭用鏡餅、橙、などの大量の生ゴミ、本来どんで焼きで燃えるわけが無い、鏡餅が入っていたプラスチック包装、ランドセル、バッグ、教科書、本、写真アルバム、人形、大量のぬいぐるみ、年賀状の山、祝い箸の箸袋、神棚、仏壇、位牌、へそ緒等々、境内が、本当に分別も何もされない廃棄物置き場と化してしまふようになりました。業務用の巨大な門松も勝手に置かれた事もありました。

今回、他の神社の事でしたので、取材では答えませんが、近くの神社では、電気製品とか、酷い例では遺骨が入ったままの骨壺を置いて行かれた所もあります。もう神社の処理能力を完全に超えてしまっているというか、理解できない現象になっています。

こういう例は殆ど無人の古神札納め所に放り込まれますから、現在、自社の御札御守しか受けつけない神社や、一切引き受けないところ、納め所を設置しないところも出ています。こうした事態に耐えかねて、受けつけられない物はその場でお返ししている所も多いのですが、それが原因でトラブルになる事も良くあります。

実はこの時期は、神社にとって最もストレスが溜まる季節でもあります。

しかし、こうした事の原因としては、集落の地域共同体が破壊されている事、家庭内の世代間引き継ぎが無くなってしまった事、野焼きが禁止された事、物を廃棄する方法が厳しくなった事が背景にあるのではないかと思います。そのしわ寄せを持ち込まれても困ります。神社の納め所や、どんで焼きを行っているところを見ると何を放り込んで良いと思ってしまうたり、処分する事に多少とも抵抗感がある物を、全部どんで焼きや神社へ持ち込んで後ろめたさから逃れている心の動きもあるようですが、日本人が持つ「意識されざる宗教性」も現れていると思われれます。

新年からこんな話題で取材を受けるのは嬉しくはなかったのですが、全国の神社が長年困り果てている状態を知っていましたので、敢えて積極的にテレビ局へ情報

を提供しました。TBS、フジ TV、日テレ、CBC、中京 TV と 5 社 6 回放送してくれました。私が紹介した和歌山の神社には関西テレビの取材もあったようです。ネットメディアはやフーニュース、ニフティ、ライブドアの 3 社が取り上げているのが確認できました。一般の方からは、「そんな酷い状態とは知らなかった」とか、「非常識な人が多い」とか反応がありましたが、同職からは「全国へ流れて良かった」と感謝されました。

小正月の風物詩とはいえないような状態になってきましたが、今後、少しそういった視点でどんで焼きをご覧頂ければ有難いと思います。

今日は豆を撒いて、厄を落として、今年一年元気で過ごして下さい。



直会

喜寿を迎えられました萩原さんによる 乾杯ご発声



今年も本殿にて吉田宮司様より新年を寿ぎ、皆様のご健康を願いますの繁栄と、皆様のご健康を願うご祈禱いただきました。今年も皆様にとって幸せな 1 年になろうかと存じます。

今宵一緒にできました皆様との出会いに感謝申し上げ「乾杯！」

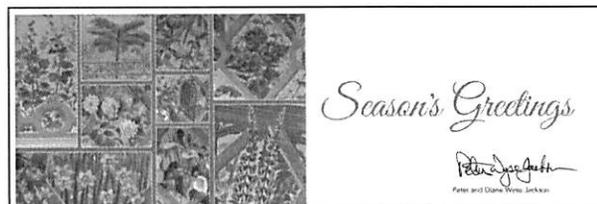
宮尾副会長 閉会挨拶



旧暦では本日は 12 月 24 日のクリスマススイブにあたり、ちょうど次週、2 月 5 日の例会日が正月になります。また新たに、そして来年も再来年も、皆さま健康でロータリーもしっかりと活動して頂きますようお願いしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

～ パラグアイオニバス委員会 ～

ミズーリ植物園より Season's Greetings Card が届きましたのでご紹介します



ニコボックス

小山 雅弘

1月14日に母 小山あい子が亡くなりました。
大正9年生まれの100才でした。大正、昭和、平成を
生きぬいたあっぱれな女性でした。
ご夫人誕生日お祝い

鈴木 聖三

本日の節分祈禱・追儺式、城山神社さん、吉田宮司お
世話になります。よろしくお祈りします。

吉田 玄

豆をまいて、風邪をひかないよう願います。

福井 浩道

ご夫人誕生日・結婚記念日お祝い

足立 一郎

萩原喜代子

長谷川 亨

伊藤 健文

加藤 重雄

河合 隆史

松岡多加倫

宮尾 紘司

三好 親

太田 和孝

大谷 恩

笹野 義春

谷口 優

舎人 経昭

碓氷 美佳

余語 秀陽

今年も良い年でありますよう

ご祈禱よろしくお祈り 致します

20件合計 72,000円



演芸において客席の笑いを初めに取ると後の話のウケが良くなると言われていた。

これを“つかみ”と呼ばれている。私はこれと全く同じとは言えないが、会長のスピーチはその例会の雰囲気大きく左右すると思う。会員が興味を持つような話で演題に集中させることはその後の例会進行に重要なことだと思っている。

決してウケを狙っての冗談話でなく、例会を盛り上げる話が良いと思う。特別な話術も不要だと思うし、スライドを毎回使用しての解説もそれほど必要はないだろう。会長の人柄あふれる内容であれば良い。しかし政治や宗教に深く入り込んだ話は、ロータリーには適さないと思っている。

とは言え、無理に当日の例会の内容に沿った話も不要だと思う、むしろしない方が良いと思っている。私が職業奉仕で講師に招かれた時に、会長が他の方の講演内容を孫引きした話を先にされると、それを否定することもできず、本来の話がボケてしまうことも有る。

また、当日の例会担当の委員長が、話をするであろうと明らかに予想できることを、会長が話してしまい、担当委員長が『先ほど会長がすでに話されましたがもう一度同じ話を…』となってしまう。

他にも当日の卓話者の話、例えば〇〇に関する卓話であれば、Wikipedia(ネット上の百科事典のようなもの)などで調べたことを、そのまま歴史やいわれなどを話される会長がいる。これは聞く方も話す方にも迷惑なことだと思っている。同じ内容で盛り上げようとしているのだろうが、違った話で盛り上げてもらいたい、その話の専門家が次に控えておられるのだから。

会長のスピーチが例会の雰囲気を作るということは前述の通りだが、その例として次のことが言えよう。例えば会長が公務や病気などで欠席される例会で、副会長が会長の代わりにスピーチをされることがあると思う。このような日の例会は私が所属するクラブだけでなく、他のクラブもちょっと雰囲気が違わないだろうか。決して副会長が雰囲気を壊していると言っているのではなく、副会長の人柄を感じる事が多く、その時の初めのスピーチで例会の雰囲気が変わるのではないだろうかと言うことである。

毎回の会長スピーチが嫌で会長を受けたくないという会員の方がいるのも事実であり、スピーチの内容に苦心するという話もたまにクラブ内外で聞くことが多い。それほど悩まれることもないと思うが、嫌なものは嫌なのだろうと思う。私も毎回の会長スピーチには色々と考え、工夫させられた経験を持っている。

もちろん会長スピーチがどのようであっても、最終的には当日のゲストによる卓話やメインイベントで、例会の雰囲気が大きく変わるのは事実である。しかしながら、私はクラブ会長のスピーチにいつも真剣に耳を傾けたい、そこには会長のクラブへの思いのほどが出ているからである。あまり固く考えず、スピーチをするというより、皆さんに話を伝えますよ、くらいの感じでの話が良いのではと思うが、皆さんはどうであろうか。

RID2760 2018-19 ガバナー 村井總一郎

Rotary



インスピレーションに
なるう

Be The Inspiration

【ガバナー月信 2月号より】

会長スピーチについて考える

後半期になって、私は一人のビジターとしてクラブ訪問を行っている。普段の例会運営を見ることが出来るので、私にとってロータリーを知る良い勉強となっている。(ガバナー便り 2月号参照)

私が例会に出席して興味を持っている一つが例会の会長のスピーチである。ガバナー公式訪問の時には、ガバナーを迎えての歓迎の挨拶であったり、ガバナーが聞いているのだからと少し張り切り気味でお話をされる方も見えるので、少々固い雰囲気でのスピーチを聞くことが多い。

しかし、この頃になると各クラブの会長にとってスピーチをするのも慣れてこられたのであろうか、余裕をもってお話をされているように見える。

会長スピーチは主にロータリーについての内容を、会員に伝えるのが基本であると思うが、ロータリー歴の少ない会員が会長になると、このようなことを期待するのは難しいと思う。とは言え、あまり興味をひかない会長個人の趣味の話が聞かされるのも、私には辛いものである。



次回例会：2019年(平成31年) 2月12日(火) 12:30 名古屋東急ホテル3階 錦の間
卓話：『人生のやりがい』 名古屋第二赤十字病院 名誉院長・愛知県医療学院短期大学 副学長 石川 清 様